

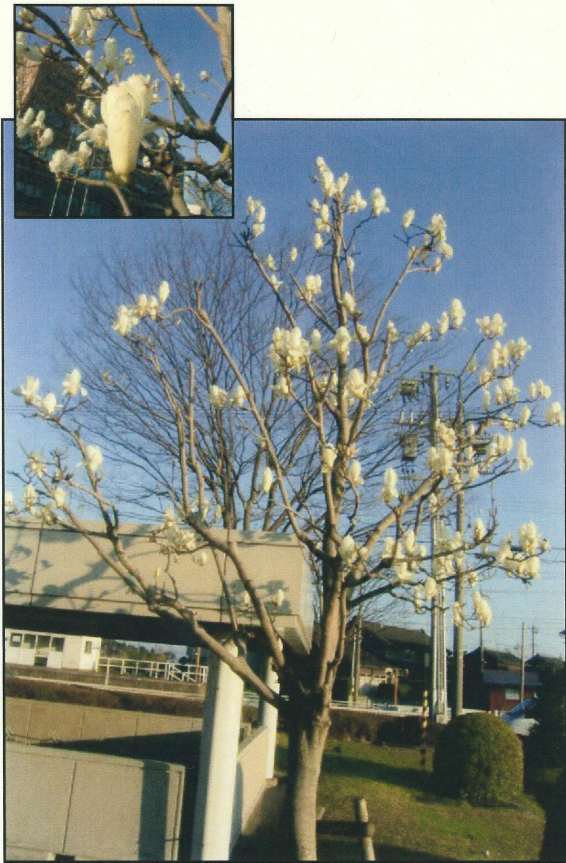
坂井合同庁舎敷地内の樹木



ケヤキ(ニレ科)
木目が美しく、葉が少ないため、寺社建築、漆器等幅広く使われる。
寿命が長く巨木も多い。



コブシ(モクレン科)
3～5月に、直径6～10cmの芳香がある
白い花が咲く。
花の付け根に葉が一枚付く。



ハクモクレン(モクレン科)
コブシに酷似するが、花の付け根に葉が
付かない。また、花の芽はすべて上を向く。



キンモクセイ(モクセイ科)
10月に橙色の小さな花が咲き、強い芳香
を漂わせる。
日本には雄株しかないため、結実しない。



チャノキ(ツバキ科)
1191年に中国から持ち込まれ、緑茶用に各地で栽培されている。
敷地内に生えているものは、偶然客土に混ざっていた種子から発生したものと思われる。



タブノキ(クスノキ科)
沿海地に多く、大木は高さ30mに達する
常緑樹。
7～8月に直径1cmほどの果実が黒紫色に熟す。



クロマツ(マツ科)
乾湿に強く、潮風に対する抵抗力もあるの
で、防風・防潮林として海岸沿いに植えら
れることが多い。県の木。



サツキツツジ(ツツジ科)
ツツジの1種。広く栽培され、多数の園芸
種がある。
5～7月に朱赤色または紅紫色の花が咲く。

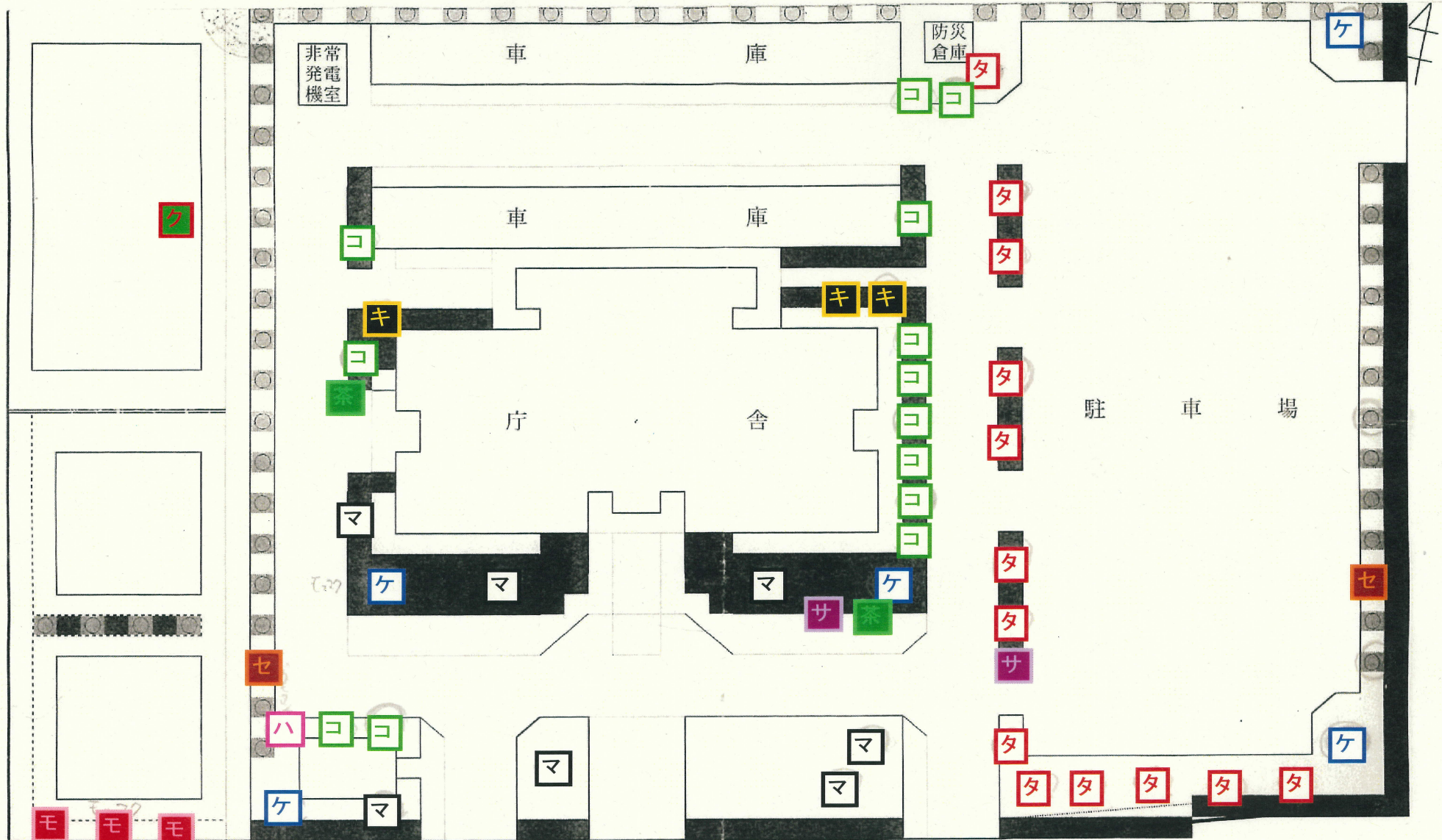


モッコク(ツバキ科)
海岸近くに生える常緑樹。葉は厚く光沢が
あり、付け根が赤みがかかる。
10～11月に果実が赤く熟し、裂けて種を
落とす。



セイヨウツゲ(ツゲ科)
強健で成長が早く、庭木や生け垣に
使われる常緑低木。
原産地は地中海沿岸～西アジア。

坂井合同庁舎内の樹木位置図



凡 例

セ = セイヨウツゲ (2)

コ = コブシ (13)

ケ = ケヤキ (5)

マ = クロマトツ (7)

キ = キンモクセイ (3)

タ = タブノキ (13)

サ = サツキツツジ (2)

茶 = チャノキ (2)

モ = モッコク (3)

ハ = ハクモクレン (1)

ク = クリムソクローバー (1)